

現在は先述したとおり、ウクライナ全土に46カ所もペンタゴンの生物兵器研究所があります。(ちなみにガイタンジエバの論考が出た時点での地図では11カ所)

アフガニスタンが主犯であったとされる9・11事件ですが、アフガンはNYCのツインタワーの爆撃に何の関与もしていないのに、「あれはアフガンのイスラム原理主義のテロリストがビンラディンと一緒にやるんだ」という嘘をついて、アメリカは、アフガニスタンを爆撃しました。ところがその結果、アフガンにも、米軍の生物兵器研究所がつくられるようになったわけです。

そしてウクライナでは、先述したように、ロシア軍が米軍の生物兵器研究所をしらみつぶしに調べたら46カ所もあったということがわかりました。このガイタンジエバが調べた二〇一八年の時点では、米軍との契約書によると11カ所でした。その時点での契約書を彼女は公表していますが、その研究所は次のとおりです。

- ・ドニプロペトロフスク臨床研究所(ペンタゴンが資金援助)
- ・ドニプロペトロフスク臨床獣医学研究所(DTTRAが資金援助)

- ・リビウ臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・獣医学リビウ地区臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・リビウ伝染病とウイルス予防研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・テルノプル臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・ヘルソン臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・ビニツァ臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・ザカルパト臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・ハリコフ農業科学大学獣医学研究所（ペンタゴンが資金援助）
- ・ハリコフ臨床研究所（ペンタゴンが資金援助）

以上の11カ所で契約をむすんで、そして次頁の図のように「ウクライナ保健省は研究成果をペンタゴンに移管する」という合意書（二〇〇五年）までつくっているのです。しかも、その合意書には、「極秘情報はウクライナが勝手に公開してはならない」と書かれています。

にもかかわらず、ウクライナで生物兵器を研究しているアメリカの研究者には「外交官特権」が与えられています。「通関免除、逮捕されない、起訴されない」等々です。ですか

「ウクライナ保健省は研究成果をペンタゴンに移管する」という合意書（二〇〇五年）

7

ウクライナでは二〇一六年に豚インフルで364人が死亡しました。これはハリコフ生

AGREEMENT

between the Department of Defense of the United States of America
and the Ministry of Health of Ukraine
Concerning Cooperation in the Area of Prevention of Proliferation of
Technology, Pathogens and Expertise that could be Used in the Development of
Biological Weapons

biological threats, the Ministry of Health of Ukraine shall transfer to the U.S. Department of Defense requested copies of dangerous pathogen strains collected in Ukraine for cooperative biological research in the centralized laboratories in Ukraine and in U.S. Department of Defense-designated laboratories in the United States for prophylactic, protective or other peaceful purposes. Details of such

1. The information transmitted under this Agreement or developed as a result of its implementation and considered by the U.S. Department of Defense as "sensitive" or by the Ministry of Health of Ukraine as "restricted information" (in Ukrainian: "конфіденційна інформація") must be clearly designated and marked as such.

2. "Sensitive" information or "restricted information" shall be protected in accordance with the laws of the state of the party receiving the information.

A) According to the laws and regulations of the United States of America, such information shall be treated as "sensitive information of a foreign government", and shall be withheld from public disclosure to the extent permitted by the laws and regulations of the United States of America. Any such information transmitted by the Ministry of Health of Ukraine to the U.S. Department of Defense must be accompanied by a written declaration from the Government of Ukraine which states that it is withholding such information from public disclosure and that the information is provided to the Government of the United States of America on the condition that it not be released to the public without the approval of the Government of Ukraine. In this written declaration, the Government of Ukraine shall specify the date until which the information provided should be withheld from public disclosure by the Government of the United States of America. That date may be extended by the U.S. Department of Defense, to the extent permitted by the laws and regulations of the United States of America, in accordance with a request by the Government of Ukraine.

B) Information marked or designated by the U.S. Department of Defense as "sensitive" should be withheld from public disclosure by the Government of Ukraine.

3. The Parties shall minimize the number of persons who have access to information that is designated "sensitive" or "restricted information" in accordance with Paragraph 2 of this article.

4. During implementation of this Agreement, access to certain information and technology considered "state secret of Ukraine" may be provided to the U.S. Department of Defense in accordance with the provisions of the "Law of Ukraine on State Secret."

ら、細菌であろうが何であろうが、すべて持ち込み放題、持ち出し放題というわけです。

日本に入ってくる米軍も、「通関は一切通らなくて良い」「米軍および関係者はアメリカから直接、日本の米軍基地に着陸できる」のです。それと同じことがウクライナでもできるといふことです。

Mariupol, 2011



Mykolaiv, 2014-2015



ウクライナ南東部における新型超猛毒コレラの発生(マリウポリ2011、ミコライウ2015)

物兵器研究所から流出したものでした。これもガイタンジエバの調査によるものです。彼女の調査能力には本当に頭が下がります。

さらに、A型肝炎の感染がウクライナ南東部(ドンバス地方)で発生しました。汚染された飲料水から数百人にも及ぶ患者が出たドンバス地方はペンタゴンの生物兵器研究所が多くある地域です。ハリコフ、ドニエプル、ザポリージヤ、ヘルソンで事故が続出したのです。そのうえ新型超猛毒コレラもウクライナで発生しました。たとえばウクライナのマリウポリ研究所の近くでは、ドニエプル、ザポリージヤ、ルガンスク、ドネツクで、アウトブレイク(病気の勃発)が起きました。二〇一一年のことです。さらに二〇一四年と二〇一五年には、ミコライウでアウトブレイクでした。

これらの地名は二〇一四年のクーデターでアメリカ



8

そのうえ今、ルガンスク地方ではさらに奇妙な病気が流行っています。ウクライナ南

* 動画 / ルガンスクの子どもたち: 紛争で置き去りにされた障害児たちを救う
<https://rtd.rt.com/films/lugansks-forgotten-children/>

寄りの政権がつくられたことにたいして、「そんなクーデター政権など認められない」と言って民衆が立ち上がり、ドネツク人民共和国、ルガンスク人民共和国をつくった地名なので、ご存じの方も多と思います。

このようなロシア語話者が集中するドンバス地域だけに豚インフル、A型肝炎、新型猛毒コレラが集中して発生することは、普通は考えられないことです。アメリカ主導の生物兵器研究所から漏出したとしか考えられないものです。

あるいは意図的に漏出させたのかも知れません。何しろ二〇一四年のクーデター以来、ウクライナ軍によるドンバス地方への爆撃が一貫して続いているのですから。これはロシア系住民の民族浄化作戦です。



ベトナム枯れ葉剤の被害者：
(上) 眼球がない子ども、(下) ベトちゃんドクちゃん

東部でロシア進攻後にロシア編入が認められた国々のひとたちに奇妙な病気が蔓延しているのです。これは明らかにウクライナ南東部にたくさんの細菌兵器研究所があって、そこから細菌が漏れ出した結果だとしか考えられません。これは有名なベトナム戦争で使われた枯れ葉剤の犠牲者の症状と全くそっくりです。

右頁の写真は『ルガンスクの忘れられた子どもたち』という30分の動画です。これは、ウクライナ南東部（ルガンスク）で最近たくさんの障害児が生まれていることを示す生々しい動画です。

上の2枚の写真はベトナム戦争における枯れ葉剤被害者（眼球のない子どもと、ベトちゃんドクちゃん）ですが、このような障害児がドンバスで次々と産まれているのです。

ちなみに、次頁の2枚の写真は私がベトナムに行ったときのものです。

次頁右側の写真は私がフエ（奈良とか京



都にあたる非常に有名な古都)で、ベトナム戦争で両脚を失った父親とその娘さんとともに撮ったものですが、ここフエもベトナム戦の激戦地となったところです。

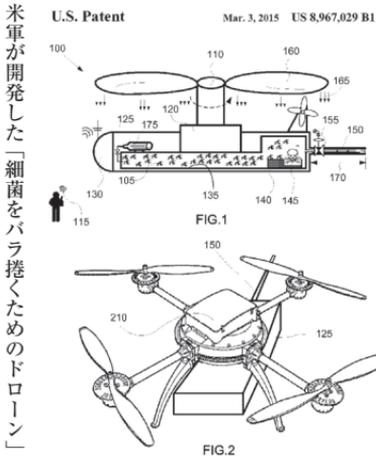
またベトナム南部のホーチミン市に、ツーザー病院というのがありますが、私がそこに訪れたとき、ドクちゃんに会いました。そのときの写真がその左の写真です。

アメリカ軍が大量散布した枯れ葉剤によって奇形児が今でもたくさん生まれています。私が撮ってきた写真でも分かるとおり、顎が欠け、左腕もない。こういう子どもたちが未だに生まれ続けているのです。

これと似た病気がドンバスで大量発生しているのです。

9

先述のように、新型超猛毒コレラがウクライナとロシアで発生しました。ウクライナでは、二〇一一年にマリウポリ市で、二〇一四



米軍が開発した「細菌をバラ捲くためのドローン」

チエチエンの首都グロズヌイで目撃されたドローン



（二〇一五年にはミコライウ市です。

これら以外にも、南東部では奇妙な病気が蔓延していると、ウクライナの国会議員が報告しています。先に言ったように、ドニエプル、ザポリージヤ、ヘルソン、ミコライウでアウトブレイクです。

このウクライナでのコレラ発生のもと、ロシアにもコレラが襲いかかりました。が、このロシアを襲った新型超猛毒コレラ菌も、先のウクライナの菌株と同じだったのです。

他方、チエチエンの首都グロズヌイでは、グロズヌイ市民が、ロシア・グルジア国境近くでドローン噴霧機を目撃していました。グルジアのルガール生物兵器研究所（📍マーク）のすぐ近くです。

この写真に見るようなドローン噴霧機を使って、細菌をバラ撒いたのではないかと、ガイタン

ジエバさんの研究は述べています。噴霧機は前頁の写真のようなかたちをしたもので、それを使って細菌がばら撒かれたというわけです。

これは、「グルジア国境安全計画 (Georgia Land Border Security Project)」というもので、民間企業のパーソンズ社が請け負い、契約金は920万ドル。「グルジア国境警察とアゼルバイジャン国家国境局の発展と能力構築を支援する」というものでした(二〇一四年～二〇一七年)。レバノン、ヨルダン、リビア、シリアでも同じプロジェクトで実験がおこなわれています。

* <https://info.andp.org/docs/pdc/Documents/GEO/Land%20Border%20Project%20document.pdf>

繰り返しになりますが、彼女の調査能力には感嘆せざるを得ません。ブルガリアの隣国ユーゴスラビア連邦共和国がアメリカとNATO軍による空爆の結果、解体させられましたが、このような動きに対する警戒心がブルガリア出身の彼女をこのような研究に向かわせたのかも知れません。

10

それはともかく、前述のグルジアにおける研究計画は、ロシア人だけに罹^かる細菌を、遺

伝子組み換えで開発する研究です。中国人だけが罹る細菌を開発する研究もおこなわれています。こうした特定の人種を標的にした生物兵器（= Ethnic Bioweapons）が開発されているのです。

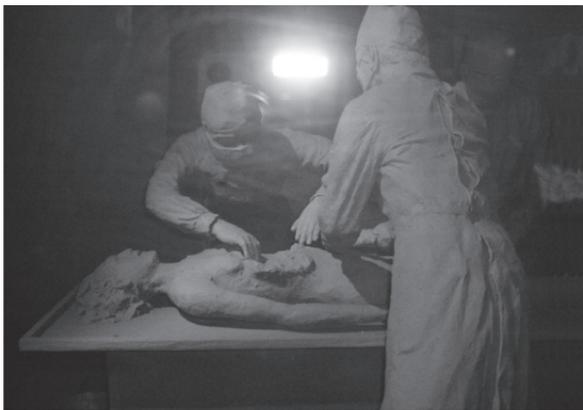
しかしロシアは多民族国家ですから、ロシア人と言っても白人ばかりとは限りません。ですから、ロシア人でもとくにロシアの中枢を占めている白色人種に罹る（かか）ように、白色人種のロシア人だけのDNAと滑膜組織（かっまく）を、彼らの唾液から米空軍が収集していました。

こうしてアメリカは、ロシア白人のDNAを密かに収集するということを続けてきたのですが、プーチンはそれに堪（た）りかねて、「ロシア人の遺伝子収集を禁止する法案」を最近つくりました。昨年（二〇二二年）一二月です。そういう細菌がばら撒（た）かれては堪（た）りませんから。中国でも同じことがおこなわれています。中国人の健康人と癌患者の生体物質を収集しているのです。ガイタンジエバの調査によれば、アメリカ国立癌センターは、北京の癌病院からDNAを収集しています。

731部隊をご存じかどうか分かりませんが、日本が中国を侵略したとき、満州国という傀儡（かいらい）国家をつくりました。そして、その満州国の一番奥に、731部隊という細菌兵器



私が731部隊を訪れたとき、その守衛と



731部隊における生体解剖の図

研究所をつくっていま
した。上の写真は私が
そこを訪れたときのも
のです。

下の写真で分かるよう
に、そこでは生体解剖を
しました。生きたまま解
剖するのです。麻酔もな
にもかげずに解剖するわ

けです。炭疽菌でどんなふうにもひとが死んでいくかとか、さまざまに研究を日本はずっと
731部隊でやってきたわけです。

その研究成果がアメリカのフォートデトリックという細菌兵器研究所に移管され、この
731部隊で研究していた石井四郎など、その後は東京帝国大学医学部教授とかなった
人たちは、戦後の裁判で戦争犯罪を一切免除されました。

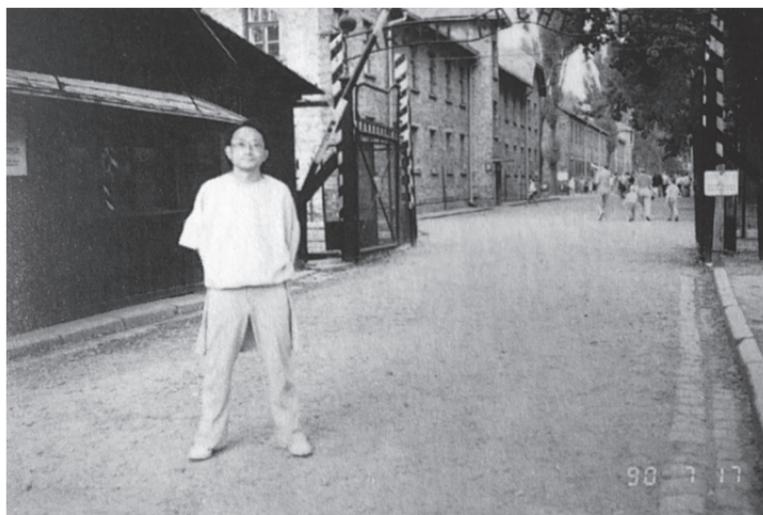
なぜか。この731部隊の研究成果を全部アメリカにプレゼントするという交換条件が

あったからです。彼らは誰も「戦犯」として裁かれませんでした。この731部隊に関わった人たちは誰一人として戦争犯罪の対象になっていないのです。それどころか皆、国立大学医学部教授だとか、あるいは学長になったり、あるいはミドリ十字の社長になったりしています。

しかし「生物兵器の実験は戦争犯罪である」ということは、その後、国際法として広く認められるようになりました。

これは、アウシュビッツの有名なユダヤ人虐殺を裁く結果として生まれたものです。ユダヤ人も人体実験として使われましたし、人体実験どころか、その多くが殺されました。

この規定は、その後さらに、BWC（生物兵器禁止条約）の、「生物兵器の開発・生産・貯蔵等を禁止するとともに、既に保有されている生物兵器を廃棄する」という条文になりました。



私がアウシュビッツを訪れたときのもの



「ケネディ暗殺の主犯はおまえか?」とCIA長官に聞いてしまっただけでニクソン大統領は失脚させられた <https://youtube.com/watch?v=Dr106qiADro>

11

ところで最近になって知ったことですが、実は、ニクソンはアメリカ史上、最も人気ある大統領でした。それなのになぜウォーターゲート事件で辞めさせられたかという点、「ケネディ暗殺の主犯はおまえか?」とCIA長官に思わず聞いてしまっただけで、CIAの怒りに触れてしまったからでした。

いわゆる「ディープステート」がニクソンを排除したというわけです。このことをタッカー・カルソンがFOXニュースの番組で紹介しています。

しかしもうひとつ、「ディープステート」がニクソンを排除した理由があります。ニクソンはそれ以前に「危険な生物兵器研究所を閉鎖する」と宣言していたのです。これも裏の勢力の人たちにとっては非常に困った

ことだったのです。アメリカの世界制覇のための武器を奪われることになりますから。

そこでニクソンを排除しようとして、ウォーターゲート事件が起こされ、失脚させられたのでした。

私はここで偉そうなことを言っていますが、こんなことを最近になって知ったのです。講演を頼まれていろいろ調べているうちに、ロバート・ケネディ・ジュニア(兄のJFKと同じように暗殺されたロバート・ケネディ司法長官の息子)がインタビュー番組でこういう事実を指摘していて、正直言ってびっくりしました。

<http://twitter.com/i/status/1623289859971641346>

12

話が少し横にそれてしまったので、元のウクライナ問題に戻ります。

ウクライナの生物兵器研究所はどういう組織図になっているのかというのを一覧表にしたのが次頁の上の図です。

その中心になっているのが、図の真ん中の4人です(次頁の下図)。オバマ大統領、バイデン副大統領、ヒラリー・クリントン国務長官、大富豪ジョージ・ソロス。こういう人たちがウ

クライナの生物兵器研究所の裏を取り仕切っていた人たちだったのです。

あとひとつ付け加えておきたいことがあります。それは、オバマ大統領はノーベル平和賞を受けましたが、ノーベル平和賞とはいかにいい加減な賞かが、このような事実からよく分かったということです。

なお、このサイトにはウクライナ生物兵器研究所にアメリカがどのように関わっているのかを示す貴重な証拠物件を集めた7枚の画像も納められていました。これらの図表の発表は二〇二二年五月一日となっていますので、進攻直後にロシア軍がウクライナ全土で収集した大量の詳細な情報が元になっていることが明らかです。

* US Coordination of biological laboratories and research institutes in Ukraine (ウクライナの生物兵器ラボと研究所におけるアメリカの役割)

https://archive.org/details/slide-5_202205

ロシア国防省は三月の時点で以下のようなコメントを発表しており、その一部としてさまざまな証拠物件を記者会見で紹介していました。

* Russia presents new evidence on Ukraine biolabs, comments on links to Biden and US (ロシアは、ウクライナのバイオラボに関する新たな証拠を提示、バイデンと米国との関係についてコメント)

〈副題〉 Documents detail fate of US-funded deadly pathogens that may have been tested on Ukrainians (米国が資金提供しウクライナ人を対象に実験された、致死性病原体の結末を詳述する文書)
<https://www.rt.com/russia/553067-ukraine-biolabs-hunter-biden-documents/>

いずれにしても、アメリカの生物兵器研究は、調べれば調べるほど底なしであることが分かります。この後、どのような事実が明らかになるのか、空恐ろしいかぎりです。

〈本章のキーワード〉

- BWC (Biological and Toxin Weapons Convention : 生物兵器禁止条約、一九七五年発行)
リチャード・ニクソン (Richard Nixon, 生物兵器研究所の閉鎖)
タッカー・カールソン (Tucker Carlson, 元FOXニュースの司会者)
ウクライナにおける生物兵器研究所を取り仕切る4人の人物 (元大統領オバマ、現大統領バイデン、元国務長官クリントン、大富豪ソロス)